

# 事業報告書

(令和元年度)

社会福祉法人 相模翔優会  
特別養護老人ホーム ル・リアンふかみ

<目 次>

はじめに	3
1 理事会・評議員会開催状況	4
2 特別養護老人ホーム	5
(1) 利用者の状況とサービスの提供	5
(2) 介護主任総括	7
(3) 各ユニット報告	7
(4) 短期入所生活介護	12
(5) 利用者の健康状況	13
(6) サービスの質の向上	15
ア 相談部門	15
イ 機能訓練	16
ウ 食事の状況	17
エ 介護支援専門員	17
3 委員会報告	18
(1) 安全衛生委員会	18
(2) 介護サービス委員会	18
ア 食事・栄養	18
イ 排泄	18
ウ 入浴	19
エ 感染症・褥瘡予防	19
(3) 人権擁護	20
(4) 総務委員会	22
ア 防災	23
イ 物品	23
(5) 施設活動委員会	24
ア 研修	24
イ 行事企画	27
ウ ボランティア活動	27
4 職員関係	28
(1) 職種別配置構成	28
(2) 資格取得構成	28
(3) 実習・見学・講師派遣	29
5 令和2年度に向けて	29

# はじめに

令和2年3月31日  
ル・リアンふかみ  
施設長 小泉 昇

2019年度（令和元年度）は平成から令和への改元の年で、全体に好景気に支えられておりました。年度末に発生した新型コロナウイルスによる肺炎の感染拡大問題が日本のみならず、世界的な規模での問題となっておりました。当施設でも2月初旬には面会の自粛要請に始まり、2月下旬からは面会禁止体制をとるなど、今まで経験した事のない感染症対策を行って参りました。新型コロナウイルス感染症対策については令和2年度も国の終焉宣言まで現行の対策を続け、ご利用者、職員及び職員家族に感染予防に努めて参ります。

施設の運営状況につきましては、施設課の各部門である相談、介護、医務の三部門につきまして、相談部門は相談員間の事業意識の不足が前期の稼働の低迷をよる売上げの低迷がありました。令和2年度の事業活動ではこの点の改善を各自確認し、新たな活動体制を確立致しました。介護の部門につきましては、派遣職員ゼロを達成することができました。しかし、職員定着について離職があるなど課題を残す1年でありました。この点は令和2年度事業計画でお示しした研修計画の実施による職員の質の向上や継続的研修による意識改革を行い、魅力ある施設を構築し職員定着を目指すこととなります。医務部門について、年度後半に発生したインフルエンザの職員間の蔓延など、改善すべき課題がありました。施設課として各部門の職員の質の向上を目指すことが次年度の課題と言えます。

職員処遇について10月より特定処遇改善加算を取得し、今までの介護職員処遇改善加算に加え、職員賃金の見直しや手当増額を行い、職員個々の能力に見合う賃金体系の改善を行うことができました。この賃金体系は職員の定着及び採用に大きな貢献に繋がり、令和2年度も継続して参ります。

また、令和元年5月に、法人の健全な運営にご尽力された前理事長で理事であった三國誠文氏が逝去されました。当法人理事会及び評議員会は三國前理事長の功績を称え総意により名誉理事長の名称を理事会・評議員会にて議決いたしました。令和2年度は法人設立10周年を迎えるべき年ではありますが、本来であれば記念すべき年と一緒に迎えるべきことができず残念な年となりました。

## 1 理事会・評議員会報告

理事会

### (1) 理事会開催状況

理事 6 名 監事 2 名

回	開催年月日	出席者数	承認・決議事項
1	令和元年 6 月 7 日	理事 6 名 監事 2 名	・ 平成 30 年度事業報告について ・ 監事監査報告について ・ 定款一部変更について ・ 三國誠文理事逝去に伴う、新理事の選任について
2	令和元年 6 月 22 日	理事 6 名 監事 2 名	・ 理事長の選任について ・ 次回理事会日程について
3	令和元年 10 月 19 日	理事 6 名 監事 1 名	・ 監査指摘事項の改善について ・ 運転資金について
4	令和 2 年 1 月 17 日	理事 6 名 監事 2 名	・ 第一次補正予算について ・ 次年度借入金について ・ パソコンリース満了に伴う、入れ替えについて ・ 通信機器入れ替えについて ・ 次回理事会日程について
5	令和 2 年 3 月 27 日	理事 6 名 監事 2 名	・ 事業計画について ・ 次年度予算について ・ 運営規定の一部変更 ・ 次回理事会・評議員会の日程について

評議員会

### (2) 評議員会開催状況

評議員 7 名

回	開催年月日	出席者数	承認・決議事項
1	令和元年 6 月 22 日	評議員 6 名 監事 1 名 理事 2 名	・ 平成 30 年度決算報告について ・ 監事監査報告について ・ 第 5 期理事選任について ・ 定款の一部変更について
2	令和 2 年 2 月 1 日	評議員 7 名 理事 2 名	・ 次年度借入金について

## 2 特別養護老人ホーム

### (1) 利用者の状況とサービスの提供

#### ア 要介護度別

令和2年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計(人)
男性	0	0	5	9	1	15
女性	0	0	23	32	19	74
計	0	0	28	41	20	89

#### イ 要介護度別月末延人数(令和元年度)

令和2年3月31日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	7
要介護2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
要介護3	26	28	29	27	25	25	27	27	27	29	29	28	327
要介護4	36	37	37	37	40	38	39	38	41	41	40	42	466
要介護5	20	18	19	19	19	21	19	19	20	20	21	20	235
計	85	85	86	84	85	85	85	84	88	90	90	90	1037

#### ウ 年齢別

令和2年3月31日現在

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	計(人)
男性	1	0	0	2	6	5	2	16
女性	1	0	1	2	11	29	30	74
計	2	0	1	4	17	34	32	90

※平均年齢 87.7 歳 最高年齢 101 歳

#### エ 入所前状況(令和元年度)

	男性	女性	計(人)	備考
在宅	3	5	8	
グループホーム	1	2	3	
小規模多機能施設	0	0	0	
有料老人ホーム	1	2	3	
高齢者専用賃貸住宅	0	0	0	
老人保健施設	2	4	6	
病院	3	5	8	
計	10	18	28	

オ 要介護度別新規入所者数（令和元年度）

	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	男性	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
	女性	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	5
要介護4	男性	0	0	0	1	2	0	1	0	1	1	0	1	7
	女性	1	2	1	0	1	1	1	0	1	0	0	1	9
要介護5	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	女性	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
合計		2	3	3	1	3	3	3	0	5	3	0	2	28

カ 退所理由（令和元年度）

	死亡（看取り介護）	長期入院	他施設入居	計
男性	2	2	1	5
女性	10	7	0	17
合計	12	9	1	22

キ 待機者状況

令和2年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	2	3	20	20	9	54
女性	3	7	35	32	21	98
合計	5	10	55	52	30	152

ク 面会状況（令和元年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計（人）
面会者数	389	391	437	411	444	423	2,495
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計（人）
面会者数	368	405	498	484	385	0	2,090

年間合計 4,585 人（月平均 416 人）3月は除く  
2月初旬より面会自粛要請、2月28日より面会制限要請を行う  
（看取り・急変については施設での判断とする）

## (2) 介護担当 総括

今年度の目標であった派遣職員をゼロにするという目標を達成することができました。介護・相談・看護の3主任の連携を図り、施設運営の中心になるということは、十分とは言えないが、当施設において新しいスタートを切ったということは、職員間でも理解されています。施設内研修も小規模ながら、他職種と連携のとれた研修を行えたが、外部への研修の参加がなく、次年度は、計画的にかつ積極的に参加していきたいと考えております。また、職員採用について派遣会社への比重が大きくなり、業務委託費の増加を招き、かつ、能力的に不足と思われる職員が増えることで、在籍職員の不満が聞かれることも少なくはありませんでした。職員の能力別の研修など増やし、施設全体のレベルをあげ、リーダークラスの職員を教育し、組織としての成長が今後の課題と考えております。

### <施設行事>

5月2日～5日	菖蒲湯
7月7日	七夕
8月4日	夏祭り
9月16日	敬老会
10月28日	バザー
11月21日	お寿司屋
12月21～23日	ゆず湯
12月28日	餅つき
1月1～2日	初詣
1月3日	お囃子、獅子舞
2月3日	節分
3月2～4日	ひな祭り
3月	花見ドライブ(新型コロナウイルス感染予防対応のため中止)

## (3) 各ユニット報告

### <1階青ユニット>

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者のADLに沿った介助の提供に努めます。</li> <li>・ご利用者やご家族のご意見、要望に応えられるよう努力します。</li> <li>・レクリエーション等で日常生活に変化をつけていけるように努めます。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間、他職種間で検討し、ご利用者、ご家族の意向に沿うようなケアに努めることが出来ました。</li> <li>・ご利用者のADLに沿った介助方法について職員間で共有していけました。</li> <li>・ご本人の趣味に合わせた時間を提供することに努めましたが、レクリエーションを定期的に行うことができませんでした</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間でレクリエーションへの意識の共有が出来ず、計画性をもって行うことができませんでした。</li> </ul>

次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者、ご家族の意向・希望をこれまで以上に伺い、望まれる介護サービスが何であるかの情報収集につとめ、職員間で共有し、計画性をもって行動します。</li> <li>・ 心身状態の変化に合わせて他職種と連携を図り、臨機応変にカンファレンスを開きます。</li> </ul>
行事	誕生日会・夏祭り・バザー・クリスマス会

#### < 1階緑ユニット >

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者の声を聴き、アセスメントをもとにした根拠に基づいたケアを提供します。</li> <li>・ 誕生日会など、ご利用者の個人にあわせた行事を行い、ご利用者の笑顔を大切にします。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的にあセスメントの見直しを行うことで、ご利用者の状態に合わせたケアができました。</li> <li>・ 誕生日会など、行事を行うことが安定して行うことができず、十分な提供はできませんでした。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レクリエーションが定期的に行えず、職員間の連携が不十分で伝達がスムーズに行うことができませんでした。</li> <li>・ 居室担当の意識が薄く、ケアが希薄なものになってしまいました。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アセスメントに力を入れ、それを他の職員に伝達し、画一したケアを行えるようにします。</li> <li>・ 誕生日会などを計画的に行い、居室担当者を前面に出して、責任感を持ったケアを目指します。</li> </ul>
行事	誕生日会・夏祭り・バザー・クリスマス会

#### < 1階茜ユニット >

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質の高いケアを提供するため、研修に積極的に参加し介護職員の技術向上を図ります。</li> <li>・ 定期的なレクリエーション等を実施し、ご利用者の日常生活に変化をつけていけるようにします。</li> <li>・ ご利用者の意思決定を尊重しご本人のペースで安全に生活を送れるよう環境整備に努めます。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部研修に参加することで職員の仕事に対する意識やスキルが向上し、ご利用者により良いケアを提供することが出来ました。</li> <li>・ お誕生日レクの他にカラオケ等を実施することで他ユニットとの交流の場を提供することが出来ました。</li> <li>・ 職員のスキルアップもあり、時間にゆとりを持つことでご利用者一人ひとりと接する時間が増え今までにない気づきや発見もあり、ご利用者の希望に沿ったケア・環境を提供することが出来ました。</li> </ul>

反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部研修に参加出来た人数が予定より少なく職員全体とはいかず、職員のレベルに差が出来てしまいました。</li> <li>・ 四季を取り入れたレクリエーションの実施が少なく、ご利用者に四季を楽しんで頂く機会があまり提供出来ませんでした。</li> <li>・ 職員の経験年数やレベルの違いもあり、新人職員などを含めてのケアの統一が難しく、職員全体でのケアの統一が出来ませんでした。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 階級に合わせた内部研修を実施し、職員のレベルに適したスキル向上を図ります。</li> <li>・ ご利用者の情報を的確に収集し、ユニット会議などの場で情報共有し 24 時間シートへ反映させ、統一された個別ケアの実践を目指します。</li> </ul>
行事	誕生日会・夏祭り・バザー、クリスマス会、カラオケ

### <2階紫ユニット>

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユニットケアの向上を目指し個々のニーズに焦点を当てた支援を目指します。</li> <li>・ 一人ひとり、ご利用者の情報を的確に収集し、24 時間シートへの反映また個別ケアの実践をします。</li> <li>・ ご利用者が在宅における生活との連続性を確保できるよう居室・共同生活室等の環境整備に努めます。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者様の対応について、その都度ユニット内で話し合いを行い適切な対応が行える環境づくりができました。</li> <li>・ 介護支援専門員との連携によるアセスメントの見直しを行い、個々のニーズに合わせたケアを意識した対応が行うことができました。</li> <li>・ 内部研修には積極的な参加をし職員の技術・知識の向上に努めました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居室担当が定まらず、居室内の環境整備や四季の飾りつけなど定期的に行われない事が多く見られました。</li> <li>・ レクリエーションが不定期の実施となっていた為、生活の質の向上につながる事が出来ませんでした。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的にレクリエーションを企画、利用者様が楽しいと思えるよう、QOL の向上を目指しレクリエーションを実施していきます。</li> <li>・ 居室担当を明確にし日々、環境整備や四季折々の飾りつけなどを行い生活の質の向上に努めます。</li> </ul>
行事	誕生日会・クリスマス会・夏祭り・バザー・施設内散歩

### <2階青ユニット>

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者一人一人の個性を尊重し、その人が持つべき能力に応じた個別ケアに努めます。</li> <li>・ 家庭的な雰囲気の中、個々の生活空間を大切にし、安心して過ごせるよう支援します。</li> </ul>
---------	---

取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様の個性や生活に合わせ適切な対応行えるよう日々職員間での情報共有を行い対応の見直しをすることができました。</li> <li>・内部研修への参加を行い、職員の知識や技術の向上に努めました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロア会議の開催において、明確な日程が決まらない事が多く、開催を見送る場合があった。その為、不明確な情報がある等しケアに混乱が生じる場面が見られました。</li> <li>・居室担当者が明確になっておらず、居室内整備が適切に行われない事がありました。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロア会議の定期的な開催を行い、情報の把握に努めます。</li> <li>・居室担当者・業務を明確し適切なユニット運営を行います。</li> </ul>
行事	・誕生日会・クリスマス会・夏祭り・バザー・施設内散歩

### < 2階緑ユニット >

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントをしっかりと行い、根拠に基づいた個別ケア充実を図ります。</li> <li>・誕生日などのレクリエーションを適宜行い、ご利用者に楽しみながら生活をして頂けるよう努めます。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規ご利用者も入居され、アセスメントの重要性を職員間で再認識できました。</li> <li>・ご利用者とのコミュニケーションが取れ、必要なケアの向上に努めました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーションなどの行事がなかなか行えず、日々の生活が単調になってしまいました。</li> <li>・個別ケアに職員間での違いが出てしまい、統一されませんでした。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーションを定期的に行い、活気ある生活を送れるようにします。</li> <li>・ユニット会議を定期的に行い、統一されたケア、質の向上を目指します。</li> </ul>
行事	誕生日会・夏祭り・バザー、クリスマス会、施設内散歩

### < 2階茜ユニット >

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の精神状態やADLをしっかりと把握し、適切な介護をおこないます。</li> <li>・職員の技術のさらなる向上を目指します。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者のADLの低下に対しては、ケアの見直しを図り、柔軟に対応できました。</li> <li>・新人職員の指導に伴い、問題点も明確化され、職員間で共有できました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室担当の仕事である清掃、衣類の整理などが十分ではありませんでした。</li> <li>・レクリエーションがなかなか行えず、日々の生活が単調なものになってしまいました。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーションの開催を定期的に行い、活気ある生活を提供致します。</li> <li>・ユニット会議を定期的に行い、統一したケア、質の向上を目指します。</li> </ul>
行事	誕生日会・夏祭り・バザー・クリスマス会・施設内散歩

### < 3階青ユニット >

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者が、穏やかで苦悩のない日々を過ごせるような支援を提供する事を基盤として、前年度よりも事故の減少を目指します。</li> <li>・ご利用者とご家族が持つニーズ、希望に応え、ご利用者とご家族とユニット職員の心が通い合うケアを目指します。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者について、医務、ケアマネージャー、機能訓練指導員、管理栄養士、ご家族とカンファレンスを開き、穏やかな生活が送れるよう統一したケアにチームで取り組むことが出来ました。</li> <li>・ご利用者に合わせたケアをすることで、重大事故につながることなく、ご利用者の健康状態の観察がよくできました。</li> <li>・季節に見合ったユニットの飾りつけ、レクリレーションを行いました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロア会議を定期的に行うことができませんでした。</li> <li>・会議で決定された事が、報告・連絡が徹底できず、実施できていない事がありました。</li> <li>・レクリレーションの企画の計画が遅れ、開催が遅れが生じました。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者が、穏やかな日々を過ごせるようなケアに努めます。</li> <li>・ご利用者とご家族の希望に応え、ご利用者とご家族とユニット職員が良好な関係を築けるケアを目指します。</li> </ul>
行事	誕生日会・夏祭り・バザー・クリスマス会・節分

### < 3階紫ユニット >

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者が穏やかで苦悩のない生活を送れるよう支援をする事を基盤とし、ご利用者とご家族が持つニーズ、希望に応え、ご利用者とご家族、職員の心が通じ合うケアを行います。</li> <li>・職員が、ニーズの把握や心の通じ合うケアを考えて行動することができ、実現できる環境作りを行います。</li> <li>・認知症のご利用者に対して、専門的な知識や技術を身につけ、適切なケアサービスを提供します。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故カンファレンスをケアマネージャー、医務、機能訓練指導員等と行い、多職種に意見を聞き、問題解決を行うことが出来ました。</li> <li>・レクリレーションを開催し、ご利用者とコミュニケーションがとれました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロア会議が定期的にはできませんでした。</li> <li>・事故カンファレンスを事故後、速やかにできないことが多く、迅速な予防策の実施が遅れることがありました。</li> <li>・レクリエーションの準備に十分な時間をとることができませんでした。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にフロア会議を行い、職員間で画一したケアをし、ご利用者のニーズに応じていく。</li> <li>・他職種と連携し、事故予防も踏まえ、相互理解を深めます。</li> </ul>

	・お誕生日会と、季節行事のレクリエーションを計画的に企画し、実施致します。
行事	誕生日会・夏祭り・バザー・クリスマス会・節分

#### (4) 短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護）

##### < 3階緑・茜ユニット >

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間稼働率95%を目標にし、各居宅介護支援事業所や医療機関等との連携を図ります。</li> <li>・緊急受け入れや長期のご利用など、様々なニーズにお応えできるような体制を整えます。</li> </ul>
取り組み評価	<p>年間平均稼働率96.6%、最高稼働率110.8%、最低稼働率87.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的なレクリエーションを行えていなかったが、年度後半からは毎週土曜日にカラオケを行うことが出来ました。</li> <li>・目標に掲げていた稼働率95%以上を達成することが出来ました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私物の返し忘れや紛失などが頻発しました。ご利用者の貴重品をお預かりしているという事を再認識し、私物の慎重な取り扱いが必要と思われます。</li> <li>・年度前半はユニットでの行事やレクリエーションを行うことが出来ませんでした。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にユニット会議等開催し、職員間の話し合える場を設けます。</li> <li>・計画的な予定を立て、レクリエーションや行事を実施します。</li> <li>・新規ご利用の方は適切なアセスメント等を行い、ユニットや医務と情報共有し、円滑に受け入れ出来るよう努めます。</li> </ul>
行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーキバイキング(週1回)</li> <li>・クリスマス会(12月)</li> </ul>

#### 年間延利用日数（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	男性	9	6	6	17	19	13	8	2	2	2	2	2	88
	女性	10	26	17	9	28	44	48	23	46	64	27	29	371
要介護2	男性	24	21	22	42	29	16	22	18	26	50	25	24	319
	女性	41	36	49	42	89	61	64	85	60	26	48	53	654
要介護3	男性	90	96	46	78	71	76	87	73	82	75	79	81	934
	女性	193	133	115	118	133	175	129	150	125	130	150	145	1696
要介護4	男性	133	160	143	159	151	108	63	44	70	27	25	26	1109
	女性	93	71	111	64	90	94	63	78	95	118	122	119	1118
要介護5	男性	17	33	20	13	15	23	20	24	26	29	21	48	289
	女性	37	14	37	67	54	37	31	31	28	36	20	12	404
要支援1	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
要支援2	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	男性	273	316	237	309	285	236	200	161	206	183	152	181	2739
	女性	374	280	329	300	394	411	335	367	355	376	367	358	4246
合計		647	596	566	609	679	647	535	528	561	559	519	539	6985
空所人数		114	55	33	58	132	101	34	19	36	13	0	22	617

#### 新規利用者実人数（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	4	2	0	2	1	1	1	1	1	0	2	0	15
女性	3	4	4	3	4	3	3	6	6	3	2	2	43
合計	7	6	4	5	5	4	4	7	7	3	4	2	58

#### (5) 利用者の健康状況

##### 月別入院者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
男	1	3	0	1	0	0	
女	5	3	3	2	0	3	
計	6	6	3	3	0	3	
区分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計
男	1	0	0	1	0	0	
女	1	4	1	3	1	1	
計	2	4	1	4	1	1	

##### 入院状況

No.	性別	入院月日	症状・病名	入院日数	再入所日	備考
1	女	4月6日	肺炎	19日		4月24日療養型転院
2	女	4月10日	誤嚥性肺炎・腎盂腎炎	15日	4月24日	
3	女	4月19日	肺炎	20日	5月8日	
4	女	4月20日	右大腿骨頸部骨折	110日	8月8日	
5	女	4月22日	硬膜下血腫	29日	5月20日	
6	男	4月30日	肺炎	30日	5月29日	
7	男	5月1日	肺炎	14日	5月14日	
8	女	5月4日	左大腿骨骨折	66日	7月8日	
9	女	5月19日	脳梗塞	41日	6月28日	
10	男	5月19日	肺炎	44日		6月18日療養型転院
11	男	5月23日	腸捻転	8日		5月30日逝去

12	女	5月31日	統合失調症	119日	9月26日	
13	女	6月8日	気管支炎	10日	6月17日	
14	女	6月22日	下血	10日	7月1日	
15	女	6月24日	胆石・胆のう炎	13日	7月6日	
16	女	7月3日	脳梗塞	13日	7月15日	
17	女	7月7日	心不全	9日	7月15日	入院先の病院で逝去
18	女	7月8日	肺炎	38日		8月14日療養型転院
19	男	7月17日	パーキンソン病	72日		9月26日療養型転院
20	女	9月9日	尿路感染	11日	9月19日	
21	女	9月16日	尿路感染	24日	10月9日	
22	男	10月2日	肺炎	24日	10月25日	
23	女	10月19日	右大腿骨頸部骨折			短期入所の為退所
24	女	10月20日	心肺停止	1日	10月21日	入院先の病院で逝去
25	女	10月30日	肺炎	19日	11月18日	
26	女	11月16日	胆石・膵炎	14日	11月29日	
27	女	11月21日	右大腿骨頸部骨折			短期入所の為退所
28	女	11月30日	肺炎	44日		1月12日老健へ転所
29	女	12月3日	吐血精査	7日	12月9日	
30	男	1月4日	右大腿骨頸部骨折	23日	1月27日	
31	男	1月9日	肺炎	17日	1月25日	
32	女	1月11日	誤嚥性肺炎	13日	1月23日	
33	女	1月23日	発熱精査	8日	1月30日	
34	女	1月27日	尿路感染・貧血	11日	2月6日	
35	女	2月18日	統合失調症			病状改善せず退居
36	女	3月15日	肺炎			
37	女	3月25日	アンモニア高値・腹水			
38	女	3月26日	左眼窩底骨折・硬膜下血腫	2日	3月27日	
39	女	3月27日	脳梗塞			
40	女	3月28日	左大腿骨転子部骨折			

疾患別

令和2年3月31日現在

No.	疾患系統	症状・病名	男	女	計(人)
1	悪性腫瘍	悪性腫瘍	4	3	7
2	精神・脳神経系	精神疾患	0	7	7
3		認知症	7	42	49
4		パーキンソン病	1	1	2
5	消化器系	便秘	11	49	60
6		胃・十二指腸潰瘍	1	3	4

7		胆石	2	5	7
8	腎臓系	尿路感染	0	9	9
9	心臓・血管系	心疾患・不整脈	3	21	24
10		高血圧	8	43	51
11		脳出血・脳梗塞	5	27	32
12	血液系	貧血	3	7	10
13	自己免疫系	関節リウマチ	1	2	3
14	骨・関節系	骨粗鬆症	1	11	12
15		腰椎圧迫骨折	4	9	13
16		変形性膝関節症	0	6	6
17		脊髄損傷	1	0	1
18		大腿骨頸部骨折	4	21	25
19	内分泌系	糖尿病	2	12	14
20		高脂血症	0	7	7
21	感覚器系	白内障	1	6	7
22		緑内障	2	3	5
23	呼吸器系	肺炎	5	14	19

#### (6) サービスの質の向上

平成 31 年度下半期に全国的に大流行となった、新型コロナウイルス感染症については報道や施設近隣の発生状況をこまめに確認し、朝礼や各会議内で伝達し注意喚起を行いました。ご利用者の面会については、国や神奈川県等の通知を踏まえ、面会の自粛を経て、令和 2 年 2 月下旬より中止せざるを得ない状況となりました。感染予防方法の周知（出勤前後の検温やうがい、手洗い、アルコール消毒等）、衛生用品（防護服やゴーグル、マスク等）を緊急的な確保・備蓄に努めました。福利厚生の一環として職員にマスクを配布し、施設職員がウイルスを持ち込まないように徹底致しました。また、理事長及び施設長、総務課、施設課職員で新型コロナウイルス予防に関する対策会議を開催致しました。その結果、施設ではご利用者及び施設職員共に感染者を 1 人も出すことなく年度を終えることが出来ました。但し、完全な終息ではない状況であることから、次年度も感染予防の周知や衛生用品確保等の感染予防対策実施に努めて参ります。

#### ア 相談担当

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入退所の効率化を行い、社会資源の活用を地域の方々へ提供します。</li> <li>・ 入居待機者の確保と待機者のショートステイ利用を促します。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和元年度における入居及び短期入所を含めた平均稼働率目標を 95% で掲げておりましたが、年間稼働率は 94.1% となり、サービス別として入居は 91.7%、短期入所は 96.5% となりました。</li> <li>・ 長期間空床につながる可能性の高い骨折事故については、前年度 12 件発生したが、今年度は 11 件となり減少に繋げることはできませんでした。</li> </ul>

反省点と要因	<p>入居の年間稼働率を95%と目標設定していたが、目標を下回る結果となった。</p> <p>① 入院後の長期療養を要す状況であっても、すぐに入居申込者への問い合わせや入居打診がスムーズでなく、退所後に次の入居者へのご案内が1か月以上要したことで稼働率の低下を招く結果となりました。</p> <p>② 相談管理職自身が収益に対する認識が不足しており、他相談員との時期入居候補者選定や入居前準備などについて共有不足により、早急な改善がなされませんでした。</p>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安定した事業運営のため、適切な収益確保、入退所の効率化します。</li> <li>・ 相談員間で入居待機者の把握を行い、空床期間を短縮します。</li> <li>・ 入居及び短期入所の目標稼働率を95%とします。</li> <li>・ 外部研修や資格取得を目指し、相談専門職としての質を高めます。</li> <li>・ 地域の介護支援事業所関連の研修や勉強会に積極的に参加します。</li> </ul>
次年度の取り組み	<p><b>【入居・短期入所共通】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護及び看護と協力し、小さな体調変化に迅速に対応し、体調不良の重症化を未然に防ぎます。入院や退所による空床を出来るだけ作らないよう努めます。</li> <li>・ 外出や散歩等の季節を感じる事が出来る取り組みを、介護及び看護と連携して行います。</li> </ul> <p><b>【入居】</b></p> <p>PDCA（業務効率化）に基づき、退居から入居までをスピーディーに行います。</p> <p>①～④のサイクルで活動します。</p> <p>①情報収集・情報共有</p> <p>②面談</p> <p>③入退所判定会議</p> <p>④入居日相談</p> <p><b>【短期入所】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各居宅介護支援事業所や医療機関等へ、電話やFAX等により定期的に空床情報を連絡し新規ご利用者を獲得します。</li> <li>・ ご利用者及びご家族のご要望を出来る限り、対応できるよう多職種と情報共有します。</li> <li>・ ご家族等の介護負担軽減を図るため、緊急利用のご要望があれば、短期入所が満床であっても、入院により生じた空き部屋を有効活用し空床利用に繋がります。</li> </ul>

## イ 機能訓練

令和元年度目標	<p>ご利用者の身体機能の把握に努め、個人の生活に沿った個別機能訓練プログラムの立案・実施をする事でADLの低下を最小限に留められる様努めます。</p>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職員と連携を取りながら身体状況の把握をし、状態に応じた個別機能訓練計画を立案・実施しました。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴や排泄介助の方法や福祉用具等の使用についても都度検討・変更が来ており、身体状況に応じた介助を実施しました。</li> <li>昨年度に引き続き小集団での体操も継続して行っており、ユニットの垣根を越えた顔見知りのご利用者同士の交流も出来ました。</li> <li>運動の希望がご利用者から聞かれる事も増え、随時対応が出来ました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らのご希望の無いご利用者については、積極的な運動は取り入れることはできませんでした。</li> <li>生活の場である事を考慮し、生活の中に自然に取り入れられる機能訓練を数多く見出していく事が今後の課題となると考えます。</li> </ul>
次年度課題	ご利用者の生活に沿った個別機能訓練プログラムの立案・実施が出来る様に、介護職員と連携を取りながら ADL の把握に努めます。
次年度の取り組み	継続して、それぞれのご利用者のご希望や機能にあった関わりを持ちながら機能訓練を実施します。

### ウ 食事の状況

令和2年3月31日現在

主食	人数	副食	人数	療養食	人数	備 考
米飯	19	常食	11	減塩食	8	
粥	54	一口大	16	貧血食	8	
ミキサー粥	12	刻み	26	脂質異常食	0	
パン	20	極刻み	13	EC食	1	
パン粥	65	ミキサー	18	腎臓食	0	減塩食を含む
計 (人)	170	計 (人)	84	計 (人)	17	
経口維持加算 I 81人						

### エ 介護支援専門員

令和元年度目標	ご利用者、ご家族の意向を組み込んだ施設支援計画書を行います。
取り組み評価	ご家族が面会に見えたときや利用者と直接支援内容の確認を実施しました。
反省点と要因	多職種との連携を心掛けたが、担当者会議の調整が難しく、スムーズな開催ができませんでした。
次年度課題	ご利用者毎の要望や希望を聞き取り、内容が盛り込まれた施設支援計画書を作成します。
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定期間が延びた事で更新対象者が今年度 28 名に対して次年度は 8 名となったが機関が長くなった事で利用者の状態変化が見受けられる事が予想される。</li> <li>長期・短期目標の見直しを適宜行います。</li> </ul>

### 3 委員会報告

#### (1) 安全衛生委員会

令和元年度目標	年間計画に沿って委員会を開催しました。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月3名の産業医との面談を実施できました。</li> <li>・ 新型コロナウイルスについての話し合いを各委員や相談員と実施することが出来ました。</li> </ul>
反省点と要因	職員の転倒による骨折が2件あり、そのうちの1件は勤務中によるもので転倒災害の再発防止の必要がありました。
次年度課題	転倒災害防止を巡回パトロールに取り組みます。
次年度の取り組み	年間計画は次年度と同じ内容で行います。

#### (2) 介護サービス委員会

##### ア 食事・栄養担当

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口から食べることを通して、ご利用者1人ひとりの栄養状態を適正化し、介護予防や生活援助の質の向上に貢献します。</li> <li>・ 栄養ケア計画書に基づき、利用者の口から食べる楽しみを支援します。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行事食については、提出計画通りに実行することができました。</li> <li>・ 7月に昭和大学歯学部教授による回診と研修がありました。ご利用者に適した食事の検討や、摂食嚥下についての職員への啓蒙ができたかと思えます。なお、2月につきましては新型コロナウイルス感染症流行の影響により、中止となりました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告・連絡・相談の連携がスムーズでないことがありました。</li> <li>・ 書式や細かな業務の効率化を引き続き検討致します。</li> </ul>
次年度課題	他職種と連携を取りながら、ご利用者のサービスの安定に努め、安心して生活していただけるよう努めます。
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月、季節の行事食の提案・提供～掲示物等工夫し、認知度を高めます。</li> <li>・ その他、食事・栄養における課題について取り組みます。</li> </ul>

##### イ 排泄担当

令和元年度目標	個々のご利用者に合わせた排泄介助の頻度となっている排泄表の作成します。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皮膚トラブルに応じた排泄ケアを実施できました。</li> <li>・ 利用者のプライバシーに配慮したケアを実施できました。</li> <li>・ 排泄介助研修を計2回実施できました。</li> </ul>
反省点と要因	排泄アセスメントの意識が低く、より個別性に意識した排泄介助の実施が今後必要であると考えました。
次年度課題	一人ひとりの状態にあわせた排泄介助をユニットで共有し、統一した方法で介

	助します。
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ユニットにおいて個々の排泄リズムが考慮された排泄介助の頻度を設定します。</li> <li>排泄量に合わせたパットの選定等により、コスト意識の向上を目指します。</li> </ul>

## ウ 入浴担当

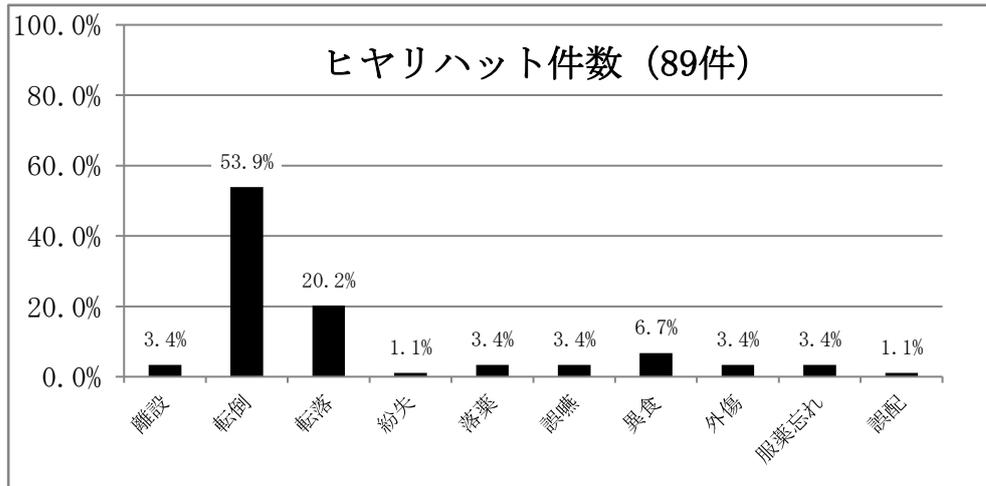
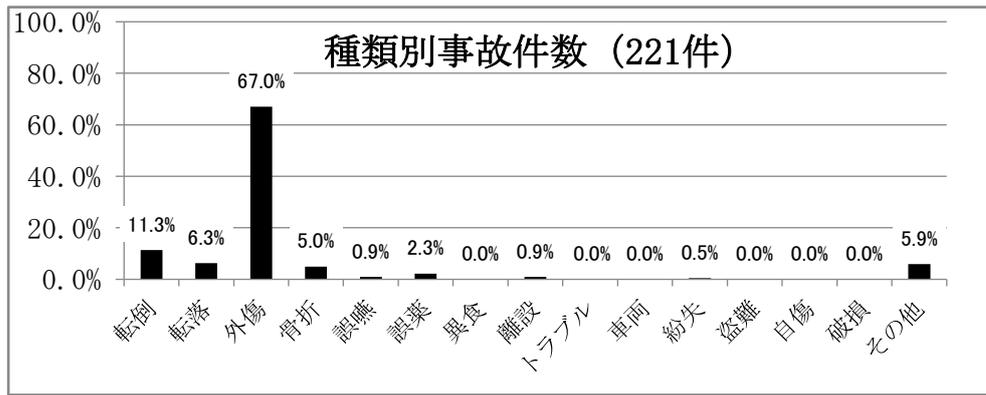
令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴担当職員と多職種との連携強化に努めます。</li> <li>入浴関連に関して他部署への報告、連絡、相談の意識を向上します。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆず湯を実施することにより、入浴時に季節感を感じていただけました。</li> <li>ご利用者の ADL の変化に合わせて迅速に入浴方法を変更できました。</li> <li>新しい入浴機器の導入により、ご利用者の ADL に合わせた入浴方法にすることができました。</li> </ul>
反省点と要因	他職種・ユニット職員との連携が不十分なところがあり、連絡が徹底されていない場面が時折みられていました。
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご利用者の ADL に合わせた入浴方法・時間を検討します。</li> <li>ご利用者のプライバシーに配慮したケアを追求します。</li> <li>入浴介助における職員の技術の向上を目指します。</li> </ul>
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴介助に必要な物品の補修・交換を検討します。</li> <li>入浴担当職員とユニット職員の意見を聞き、ご利用者が満足して頂けるケアを目指します。</li> </ul>

## エ 感染症・褥瘡予防

開催回数・出席人数	<p>5月21日…6名</p> <p>8月20日…5名</p> <p>11月19日…7名</p> <p>2月18日…8名</p>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設での感染対策の研修を実施しました。</li> <li>感染症発生時のマニュアルを作成しました。</li> <li>看護師、機能訓練指導員、介護職員と連携を図り、ご利用者に見合った体位変換と勉強会を実施しました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>体位変換の統一がなされていない事がありました。</li> <li>個々の研修を増やしていく必要があると思われれます。</li> <li>研修の参加時間を変更するも参加率があまり上がりませんでした。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回以上の内部研修の実施と参加率を上げるようにします。</li> <li>外部研修に参加し技術の向上に努めます。</li> </ul>
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月～3月感染症対策として職員の検温を実施します。</li> <li>うがい、手洗いの励行とマスク着用に努めます。</li> <li>年2回以上の研修を実施します。</li> </ul>

(3) 人権擁護委員会兼身体拘束適正化委員会

開催回数・出席人数	4月9日…11名 5月14日…13名 6月11日…15名 7月9日…7名 8月13日…9名 9月10日…9名	10月8日…7名 11月12日…12名 12月10日…4名 1月14日…10名 2月11日…9名 3月10日…10名
令和元年度目標	<p><b>【事故予防関連】</b> 骨折などの大きなケガに至る事故の減少に努めます。</p> <p><b>【人権擁護関連】</b> ご利用者の尊厳を守る支援に努めます。</p> <p><b>【苦情解決関連】</b> ご利用者及びご家族からのご意見やご要望に迅速かつ適切な対応を行い、苦情等への発展にしないように努めます。また、「苦情・相談解決フローチャート」に基づき、適切に対応し苦情の早期解決に努めます。</p>	
取り組み評価	<p><b>【事故予防関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体状況の細かな観察により、内出血の報告事例が多く挙がりました。発生報告が多いご利用者については、多職種で介助方法の検討や環境整備をこまめに行う事ができました。</li> </ul> <p><b>【人権擁護関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待に関する自己点検シートを用いた研修、外部講師によるスピーチロックに関する研修を計2回実施することができました。</li> </ul> <p><b>【苦情解決関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の苦情報告件数は5件（ご利用者声掛け、対応不統一、居室環境、ご利用者対応、利用状況報告書渡し忘れ）報告が挙がり昨年度と同数の苦情が挙がりました。委員会内で、要望や意見の段階で職員間で情報共有及び検討することができました。</li> <li>・苦情解決委員会は、施設単独で設置しております。当初の年間計画では3度（6月、11月、令和2年3月）開催予定でした。しかし、昨今の新型コロナウイルスの全国的な感染拡大により3月は中止し、2度の開催となりました。第三者委員の目黒裕委員（大和市障がい者福祉センター松風園園長）、青木宏心委員（社会福祉法人喜寿福祉会経営室長）、根岸美穂委員（厚木・海老名市社会福祉協議会ボランティア相談員）の3名をお招きし、苦情に対し、施設として取るべく対応や再発防止等について助言を頂きました。</li> </ul>	
反省点と要因	<p><b>【事故予防関連】</b></p>	



前年度は事故報告件数は 275 件で、うち骨折事故が年間通して 12 件発生しました。今年度は事故報告件数は 221 件で、うち骨折事故は 11 件となり委員会内で他フロアへ類似事故の注意喚起を行いました。大きな減少には至りませんでした。主にご自分で動かれる方の転倒による骨折事故が発生いたしました。第三者評価の発展的サービス実施において、寝たきりのご利用者の骨折事故防止に取り組んだ結果、今年度は寝たきりのご利用者の骨折事故ゼロを達成することが出来ました。状況変化のあるご利用者ケアはご利用者と関わる機会の多い介護職員だけでなく、多職種を交えたカンファレンス実施により繋がった結果であると考えます。次年度はご自分で動かれる方の転倒や骨折防止に努めて参ります。221 件のうち内出血等は 148 件報告が挙がっていますが、こまめに身体の皮膚状態の把握を実施することで、内出血からの皮膚剥離へ発展することを防ぐための確認と予防を主としています。しかし、ヒヤリハット報告件数も 89 件報告されており、大きな事故に繋がる前の報告や対応方法の変更、各職員への注意喚起の手段一つとして活用することができました。

**【人権擁護関連】**

他施設で高齢者虐待の報道がなされた時には新聞記事やネット情報などを用いて注意喚起をこまめに行いました。しかし、ご利用者の接遇については、言葉使いや態度については年長者の方への対応としてまだまだ課題の残る結果となりました。次年度も、ご利用者に対する言葉使いや態度、振る舞いについ

	<p>てチェック体制を整えます。</p> <p><b>【苦情解決関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者との関わりの中で、声掛けや丁寧な対応ができませんでした。</li> <li>・対応統一については、予め多職種で検討し作成したケア計画書や内容について共有や徹底がなされておらず、職員によって対応がまちまちである旨のご指摘だった。ご利用者にとって必要なケアであるにもかかわらず対応の一致がなされてなかったことに対し、実施が徹底されているかの確認共有の必要性が感じられました。</li> </ul>
次年度課題	<p><b>【事故予防関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨折などの重大事故の減少に努めます。</li> <li>・事故予防関連の勉強会やシンポジウム、研修に委員中心で参加し、事例や対応方法を学びます。</li> </ul> <p><b>【人権擁護関連】</b></p> <p>ご利用者に尊厳ある支援・ケア実施に努めます。</p> <p><b>【苦情解決関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者及びご家族、関係団体からのご意見やご要望を適切に対応し、苦情へ発展しないよう努めます。</li> <li>・苦情解決関連の勉強会やシンポジウム、研修に委員中心で参加し、事例や対応方法を学びます。</li> </ul>
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月第2火曜日に人権擁護委員会を開催します。</li> <li>・身体拘束適正化委員会を人権擁護委員会内で、年4回（4月、7月、10月、令和3年1月）開催し、身体拘束の適切な取り扱い及び身体拘束ゼロに努めます。</li> <li>・事故防止や人権擁護（高齢者虐待や身体拘束防止）に関する研修を行います。</li> <li>・接遇及びマナー研修（5月）、プライバシー保護及び法令遵守研修（7月）、高齢者虐待防止研修（8月及び令和3年1月）、事故予防研修（10月及び令和3年3月）を年間研修計画に沿って、委員会メンバーが中心となり開催します。</li> <li>・苦情解決第三者委員会を年3回開催し、委員会内で苦情内容及び対応について報告し、助言頂くことにより適切な対応を行います。</li> </ul>

#### (4) 総務委員会

開催回数・出席人数	4月8日…5名	10月14日…7名
	5月開催なし	11月11日…6名
	6月10日…6名	12月9日…6名
	7月8日…4名	1月開催なし
	8月12日…5名	2月開催なし
	9月9日…5名	3月19日…5名

## ア 防災

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて「災害」に対する意識向上に取り組みます。</li> <li>・気象に関しては、日々の情報収集及び地震や豪雨等では、迅速な避難等の関連行動に対応出来る様、日頃から総務委員会を通じて話し合いや研鑽を深めます。</li> </ul>
取り組み評価	令和元年度は、予定をしていた防災訓練が当日の天候によって左右され日程変更を 2 回行いました。無事に年間計画の防災訓練を実施することが出来ました。
反省点と要因	令和元年度は、2 度の大きな台風が関東地方を直撃しました。特に「台風 19 号」は、施設に隣接する境川が増水し洪水危険となり、早めに 1 階のご利用者を垂直階へ避難させ不自由ながら一晩を過ごして頂きました。
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の経験を踏まえ、気候変動に伴い災害発生リスクが高いため気象情報を収集し、全職員で情報の共有や対応に努めます。</li> <li>・昨年度末に、入職 1 年未満の職員や当施設での業務経験の浅い職員を対象とした防災研修会を開催し、特別養護老人ホームで義務付けられている防災設備や避難の在り方等を座学で学びました。次年度も繰り返し説明や学びが必要であると考えております。</li> </ul>
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入職 1 年未満の職員も多いため防災訓練を通じて、「災害の疑似体験や消火訓練等」災害の恐さや準備の大切さを肌で感じ学んでいく場とします。</li> <li>・令和元年度発生「台風 15 号」が猛威を振るい、神奈川県の一部及び千葉県内で多くの高齢者施設や医療機関が被害を受け、復旧に時間を要しました。その事実を鑑み、災害時の非常食をこれまで 72 時間分（3 日分）備蓄しました。今後は 120 時間分（5 日分）の備蓄に努めて参ります。</li> </ul>

## イ 物品

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消耗品を保管している「保管室」の衛生管理に努めます。</li> <li>・消耗品の節約に努め無駄のないように管理します。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月末に棚卸を実施し、在庫管理に努めました。</li> <li>・消費の激しい消耗品に対しては職員に節約を促しました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に近づいて「新型コロナウイルス」感染拡大が懸念され、マスク、アルコール製剤、トイレトペーパー、ティッシュペーパー等が市場で品薄となりました。</li> <li>・取引業者を通じて何とか確保し、ご利用者や職員に大きな不安を与える結果となりました。備蓄品や適切な在庫管理について考えさせられる年度となりました。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新型コロナウイルス」感染拡大の関係でマスク、アルコール製剤、トイレトペーパー、ティッシュペーパー等が品薄や価格高騰してしまった経験を踏まえ、価格調査を実施し出来る限り安価に仕入れます。</li> </ul>

次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「反省点と要因」の経験を踏まえ、取引業者や通販業者等からの情報収集を行い、保管室が欠品とならないように在庫を確認しながら仕入れます。</li> <li>・「新型コロナウイルス」感染拡大を受けて、非常食同様にマスク、アルコール製剤、トイレトペーパー、ティッシュペーパー等を防災の備蓄品目に追加し、災害時や感染症の拡大時にも対応します。</li> </ul>
----------	---

## (5) 施設活動委員会

### ア 研修

令和元年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部研修を充実させ、職員全体の援助技術及び技術の向上だけでなく、意識の向上にも取り組みます。</li> <li>・ 人権擁護に関わる研修に特に力を入れます。</li> <li>・ 適宜外部研修にも積極的に参加します。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部研修の場が少なく、十分な研修の提供が出来ませんでした。</li> <li>・ 外部研修も計画的ではなく、継続性のないものになってしまいました。</li> </ul>
反省点と要因	研修について、検討する場への提示が遅く、研修に参加させたい職員の検討もできず、機会を失ってしまうことが多くなってしまいました。
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権擁護に関わる研修を継続的に実施します。</li> <li>・ 外部講師を招くことも考慮し、内部研修を充実させます。</li> <li>・ リーダー等、中堅職員を積極的に外部の研修に参加させ、内部研修を行い、職員のスキルアップを目指します。</li> </ul>
次年度の取り組み	大和市内高齢者施設研究発表会などに参加し、共通の課題に対して、施設として取り組みます。

## 令和元年度研修実績

### 【内部研修】

研修種別	内容	参加人数
急変時対応について 令和元年 5 月 10 日 講師：土屋フロアリーダー、小泉フロアリーダー、山本主任	緊急時の対応の確認	12 名
車椅子操作・体験研修 令和元年 6 月 7 日 講師：山本主任、林機能訓練指導員	車いすの操作方法の確認。体験を通してご利用者の立場の理解	7 名
嚥下障害研修 令和元年 6 月 12 日 講師：弘中教授（昭和大学歯学部）	摂食嚥下のしくみ 口腔ケアの評価	37 名
事故予防研修 令和元年 6 月 20 日、6 月 28 日 講師：人見主任	事故発生リスクとその回避・予防策	10 名

食中毒研修 令和元年7月5日 講師：井内管理栄養士	食中毒について	8名
発熱時の対応について 令和元年7月19日 講師：片桐主任	発熱を感じてからの対応	8名
介護と接遇 スピーチロック 令和元年7月26日 講師：本多 勇氏（武蔵野大学教授）	介護のケアの仕事を振り返り、接遇のポイントについて理解する。「身体拘束」「スピーチロック」への理解を深める。	29名
新人研修 令和元年10月3日 講師：小泉施設長、人見主任、山本主任、片桐主任	入職後の新人研修	2名
感染症研修 令和元年10月17日 講師：古橋リーダー、福野職員	感染症予防について	26名（実習生含む）
体位変換の必要性 令和元年11月7日、11月25日 講師：林機能訓練指導員	体位変換の意味、ポジショニングの取り方、エアマット使用上の注意	13名
事故予防研修 令和元年11月8日 講師：人見主任	事故発生リスクとその回避・予防策	28名
感染予防研修 令和2年1月9日 講師：中村・望月（感染症委員会）	インフルエンザ、ノロウイルス対策	23名
結核研修 令和2年2月7日 講師：大塚医師、志賀保健師 （厚木保険福祉事務所大和センター）	結核の知識、感染対策	20名
高齢者虐待予防研修 令和2年1月30日、1月31日 2月10日、2月18日 講師：人見主任、土屋リーダー	高齢者虐待の防止、それにかかわる通報義務の確認。自己点検シートからの集計・観察	46名
看取り介護研修 令和2年3月12日 講師：尾方看護師	看取り介護とは。死後のケアについて	24名
褥瘡予防について 令和2年2月13日	褥瘡の理解と体位変換の意味	13名

講師：小泉看護師		
【外部研修】		
研修種別	内容	参加者
第三者評価調査員研修 令和元年 5 月 10 日 主催：神奈川県社会福祉士会	神奈川県第三者評価推進機構が示す評価項目を理解し施設内での課題解決を見出すための参加	小泉施設長
来るべき民法改正に備えて 令和元年 5 月 11 日 主催：ぱあととなあ神奈川	成年後見人の研修	小泉施設長
神奈川高齢協 令和元年 6 月 4 日 主催：神奈川県高齢施設協議会	介護報酬改定について	小泉施設長 人見主任
後見制度支援信託の理解 令和元年 6 月 21 日 主催：神奈川県社会福祉士県央支部	後見監督人と後見信託支援制度の相違	小泉施設長
第 18 回かながわ高齢者福祉研究大会 令和元年 7 月 2 日 主催：神奈川県社会福祉協議会、老人福祉施設協議会		小泉施設長 人見主任 山本主任 鈴木リーダー 甘利リーダー 福野職員
第三者評価調査者説明会 令和元年 8 月 23 日 主催：神奈川県第三者評価推進機構	第三者評価見直しに伴う評価調査推進機構	小泉施設長
苦情解決研修会 令和元年 8 月 27 日 主催：神奈川県社会福祉協議会	講演Ⅰ「運営適正化委員会における苦情解決」 講演Ⅱ「苦情解決の基本」	小泉施設長 人見主任
外国人介護人材雇用セミナー 令和元年 9 月 3 日 主催：公益法人横浜福祉事業経営者会	講師 行政書士 藤森純一氏	小泉施設長
第 1 回健康保険委員会研修会 令和元年 9 月 26 日 主催：全国健康保険協会神奈川支部	研修内容 「医療費が高くなった！そんな時は？～高額医療費制度～」 「みんなで身体を動かそう～職場でできる簡単体操～」	佐藤課長
セクハラ・パワハラ防止研修会 令和元年 11 月 29 日 主催：大和市高齢者福祉施設協議会		小泉施設長 人見主任

令和元年度特定求職施設種別講習会 令和元年 12 月 12 日 主催：厚木保険福祉事務所 大和センター 保険福祉課	井内管理栄 養士
--	-------------

## イ 行事企画

令和元年度目標	・年間行事をベースに、ご利用者に季節を感じていただけるような行事を企画します。
取り組み評価	・年間行事をベースに、ご利用者に季節を感じていただけるような行事を企画できました。
反省点と要因	・委員会の日にシフトを合わせる事が出来ず委員会当日に職員が集まらなかったため会議を開催することが出来ない月が数回ありました。それにより喫茶等の企画が遅れ企画書での他部署への伝達が遅れてしまいました。
次年度課題	・夏祭りやバザーも中心となり、ご利用者の楽しみを提供していきます。

## ウ ボランティア活動

令和元年度目標	地域住民や学生ボランティア受入を推進し、地域との連携を深め、ボランティアとご利用者との交流の場を設けます。
取り組み評価	定期的にボランティア協力していただける方々が継続していただけているのは、喜ばしいことです。より多くの方々が参加できるよう案内を促していくことが必要と思われまます。
反省点と要因	例年より、ボランティアの参加されることが少なく、ご利用者に提供できる機会が減ってしまっている。ご利用者に喜んでいただける機会を増やすためにも日ごろの多方面へのアプローチを行う必要を感じました。
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庭園の散歩や外出の機会をプランに組み入れ、地域との連携を深めます。</li> <li>・夏祭り、バザーを地域住民の方々に情報提供いたします。</li> <li>・ボランティア懇談会の実施をいたします。</li> </ul>
ボランティア実績	<p>4月 6日 歌謡ショー</p> <p>5月 23日 ウクレレボランティア</p> <p>6月 27日 マジックボランティア</p> <p>9月 16日 獅子舞</p> <p>12月 15日 書道展見学</p> <p>園芸ボランティア 月1回</p> <p>介護相談員 年9回</p> <p>庭園清掃 月1回</p> <p>お花倶楽部 月1回 延べ101名(3月新コロナ感染対応のため、中止)</p> <p>書道倶楽部 月1回 延べ164名(3月新コロナ感染対応のため、中止)</p>

## 4 職員関係

### (1) 職種別配置構成

令和2年3月31日現在

区 分		常 勤	非 常 勤	計
施 設 長		1		1
総 務 課 (宿直・営繕も含む)		4	5	9
介 護 (清掃も含む)		35	46	81
医 務	看護師等	6		6
	嘱託医師		3	3
栄 養	管理栄養士	1		1
相 談	介護支援専門員	1		1
	機能訓練指導員	1		1
	相談員	3		3
計		52	54	107

\*総務課 非常勤 管理職者、清掃ワーカーを含む。

### (2) 資格取得構成

令和2年3月31日現在

区 分	常 勤		非 常 勤		計
	男	女	男	女	
介護福祉士	19	7	5	8	39
初任者資格	9	9	5	8	28
実務者研修資格	2	1		1	4
医師及び歯科医師			1	2	3
看護師		4			4
准看護師		2			2
社会福祉士	2				2
社会福祉主事任用資格	4				4
介護支援専門員	4	2		2	8
管理栄養士		1			1
柔道整復師	1				1

### (3) 実習・見学・講師派遣関係

<見学>

\*以下の団体の見学の受け入れを行った。

依頼先	月日	見学目的	参加者
大和東小学校	10月24日	福祉施設見学	60名
神奈川県社会福祉協議会	11月5日	福祉の仕事見学	3名
大和市社会福祉協議会	11月18日	地域福祉見学会	25名

<講師・委員派遣>

\*以下の団体に職員を講師・委員して派遣した。

依頼団体	月日	内容及び会場	派遣者名
日本国際協力センター	7月18日	外国人就労講座	小泉昇
神奈川県社会福祉協議会	10月4日	福祉の仕事	山本幸雄
柏木実業専門学校	10月10日	介護職員初任者研修	人見伸吾
大和市社会福祉協議会	11月5日	介護に関する入門講座	小泉昇
大和商业高等学校	11月12日	初任者資格	小泉昇
神奈川県社会福祉協議会	12月1日	第三者評価事業者説明会	小泉昇
柏木実業専門学校	12月11日	介護職員初任者研修	人見伸吾
日本国際協力センター	1月20日	外国人就労講座	小泉昇
柏木実業専門学校	2月17日	介護職員初任者研修	人見伸吾
神奈川県社会福祉協議会	2月21日	就職支援ガイダンス	小泉昇
地域包括運営協議会	毎月	大和市保険福祉センター	小泉昇

<実習>

\*以下の機関の実習を受け入れた。

実習機関	実習時期及び延人数	実習資格
かながわ精神障害者事業者の会	4名	就労支援
柏木学園	10月17日～18日 13名	初任者資格
かながわ精神障害者事業者の会	4名	就労支援
かながわ西部職業技術校	1月14日～24日 2名	実務者資格

## 5 令和2年度に向けて

令和2年理事会・評議員会及び監事監査におきまして、令和元年度事業報告書を理事・監事・評議員各位より貴重なご意見を頂きました。また、頂いたご意見につきましては、令和2年度の事業運営の参考とし、ご意見をもとに計画を推進して参ります。

- ①ユニット毎に利用者像を明示し、支援スタッフの現状を見極めて多職種参加の会議を開催し、目標設定を見直します。
- ②職員間の情報共有が不十分であったこと、行事やレクリエーションの開催が未実施等のご指摘につきましては、年間計画に基づき実施して参ります。会議につきましても議事録を全職員へ開示するなど情報の共通に努めて参ります。
- ③在宅関係部門はありませんが、生活相談員を1名増員することにより、地域活動やボランティア調整等、幅広い活動を行って参ります。
- ④中長期計画の作成につきましては、相談員・主任を中心とした委員会を設置し、計画作成を行って参ります。